

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、忠明といふ、¹検非違使ありけり。それが若かりける時、清水の橋のもとにて、京童部ともと^Aいさかひをしけり。京童部、手ごとに刀を抜きて、忠明をたちこめて、殺さむとしければ、忠明も太刀を抜きて、御堂さまにのぼるに、御堂の東のつまにも^①あまた立ちて、向かひあひたれば、^B内へ逃げて、²藪のもとを脇にはさみて、前の谷へをどり落つ。藪、風にしぶかれて、谷の底に^C鳥のゐるやうに、^Dやをら落ちにければ、それより逃げて去にけり。

^E京童部とも谷を見おろして、あさましがり、立ち並みて見けれども、^Fすべきやうもなくて、^Gやみにけりとなむ。

問 波線部1・2の読みをそれぞれ現代仮名遣いで答えよ。知

答 1 けびいし(けんびいし) 2 しとみ

問 二重傍線部①の意味を答えよ。知

答 たくさん

問 傍線部Aについて、「いさかひ」をしたのはどこか、本文中から抜き出せ。思

答 清水の橋のもと

問 傍線部Bについて、(1)誰が、(2)どこへ逃げたのか答えよ。思

答 (1) 忠明 (2) (清水寺の) 本堂の中

問 傍線部Cについて、次の問いに答えよ。

(1) 「ゐるやうに」を現代仮名遣いに直せ。知

ア 鳥がいるように、 イ 鳥が止まるように、 ウ 鳥が羽ばたくように、

エ 鳥が飛ぶように、 オ 鳥が鳴くように、

答 (1) いるやうに (2) イ

問 傍線部Dの現代語訳として最も適当なものを、次から選べ。思

ア そつと降りてしまったので、 イ 素早く落ちていったら、 ウ ゆっくり落ちていくならば、

エ ひそかに飛び降りたので、 オ 突然降りていったために、

答 ア

問 傍線部Eから読み取れる京童部たちの心情として最も適当なものを、次から選べ。思

- ア 忠明が蔀を持って谷底へ舞い降りるといふ勇氣ある行動をとり、追い詰めていながら逃げられたことを悔しく思った。
- イ 忠明が蔀に乗って谷底へ舞い降りるといふ勇氣ある行動をとり、単純な発想でやすやすと難を逃れたことに感心した。
- ウ 忠明が蔀に乗って谷底へ舞い降りるといふ予想外の行動をとり、戦いもせずに逃げて行ったことを嘆かわしく思った。
- エ 忠明が蔀を持って谷底へ舞い降りるといふ予想外の行動をとり、その上げがもなく無事に逃げたことに驚きあきれた。
- オ 忠明が蔀を持って谷底へ舞い降りるといふ勇氣ある行動をとり、あつという間に逃げて行ったことを憎らしく思った。

問 傍線部Fを現代語訳せよ。思

問 傍線部Gとあるが、何がどうなったのか。最も適当なものを、次から選べ。思

- ア 清水の舞台から飛び降りた忠明が、その後無理がたたって病気になるってしまった。
- イ 忠明が清水の舞台から飛び降りて逃げたことで、忠明と京童部とのけんかが終わった。
- ウ 忠明の行方を追っていた京童部たちが、忠明を見つけれないまま解散した。
- エ 京童部に囲まれて清水の舞台から逃げた責任を取って、忠明が検非違使を辞任した。
- オ 忠明を逃がしたことを恥ずかしく思い、京童部たちのいたずらがおさまった。

問 ことわざ「清水の舞台から飛び降りる」について、次の問いに答えよ。

- (1) このことわざは現在どのような意味で使われるか答えよ。知
- (2) このことわざを用いて短文を作れ。思

答 (1) 非常な決意をして物事をするときの気持ち（の形容）。 (2) (例) 清水の舞台から飛び降りる思いで結婚を申し込む。

答 エ

答 どうしようもなく、

答 イ

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今は昔、忠明といふ検非違使ありけり。若男にてありけるとき、清水の橋殿にして、京童部と①いさかひをしけり。京童部、刀を抜きて、忠明を立てこめて殺さむとしければ、忠明も刀を抜きて、御堂の方さまに逃ぐるに、御堂の東の端に、京童部あまた立ちて向かひければ、その傍へえ逃げずして、薙のものとありけるを取りて、脇に挟みて、前の谷に踊り落つるに、薙のもとに風しぶかれて、谷底に鳥のあるやうに、②やうやく落ち入りにければ、それより逃げて去にけり。京童部、谷を見下ろして、あさましがりて **I** 立ち並みて見ける。

忠明、京童部の刀を抜きて立ち向かひけるとき、御堂の方に向きて、「観音助け給へ。」と申しければ、ひとへにこれ、**A**その故なりとなむ思ひける。忠明が語りけるを聞き継ぎて、かく語り伝へたるとや。

『今昔物語集』

問 二重傍線部①・②をそれぞれ現代仮名遣いに直せ。知

答 ① いさかい ② ようやく

問 空欄Iに入る語句を、本文中からひらがな二字で抜き出せ。知

答 なむ

問 傍線部Aの具体的な内容として最も適当なものを、次から選べ。思

- ア 忠明が、清水寺の観音にだけは乱暴な真似をしないでくれと京童部に言ったこと。
- イ 忠明が、観音の助けのおかげで生き延びることができたと人々に語り伝えたこと。
- ウ 忠明が、抜刀した京童部たちに遭遇した際に自分の命を救ってくださいと観音に祈ったこと。
- エ 京童部が、清水寺の舞台から飛び降りた忠明を見つけてくださいと観音に懇願したこと。
- オ 京童部が、忠明に刀を奪われて殺されそうになったときに助けてくださいと観音に訴えたこと。

答 ウ

問 以下は『宇治拾遺物語』と『今昔物語集』を比べ読みした後の教室での会話である。読んで後の問いに答えよ。

生徒A―冒頭から京童部が谷を見下ろすまでは、話の筋はほぼ同じだと思ふ。細かい言葉遣いの違いはあるけど。

生徒B―『宇治拾遺物語』で「内へ逃げて」となっているところが、『今昔物語集』では「え逃げずして」になっているのは大きな違いと考えていいと思う。

「京童部から逃げる」と「京童部から逃げずに立ち向かう」とでは話の内容がまるで変わってくるし。

生徒C—『今昔物語集』の第二段落・第三段落は、『宇治拾遺物語』にはない記述だね。ここには忠明の心情と、この逸話が語り継がれた事情が記されているよ。

生徒D—忠明が清水寺の舞台から鳥のようにふわりと飛び降りたというのはにわかには信じがたいけど、当時の人々はそれをリアリティーのある出来事だと受け取って、語り継いだんだろうな。

教師—これと同じ逸話は、実は『古本説話集』という別の説話集にも収められているんだよ。紹介しよう。この文章もあわせて比較すると、**B**『宇治拾遺物語』収録話の特徴がもつとはつきり見えてくるかもしれないね。

【今は昔、忠明といふ檢非違使ありけり。若男にてありけるととき、清水の橋殿にて、京童といさかひをしける。京童、手ごとに刀を抜きて、忠明を立てこめて、殺さむとしければ、忠明も、刀を抜きて、御堂さまに出たるに、御堂の東のつまに、あまた立ちて向かひければ、そちはえ逃げで、部のもとを脇に挟みて、前の谷に踊り落つ。部に風しぶかれて、谷の底に鳥のゐるやうに、やをら落ちみければ、それより逃げて去にけり。京童、谷を見下ろして、あさましがりて、立ち並みてなむ見下ろしける。

また、いつごろのことにかありけむ、女の、児を抱きて、御堂の前の谷をのぞきて立てるほどに、いかにしたるにかありけむ、児を取り外して谷に落とされつ。すべきやうもなく、仏の御前に向きて、「観音助け給へ。」と手をすりて惑ふに、つゆ傷なくて、谷の底の木の葉の多くたまりたる上になむ、落ちかかりて臥せりければ、人々見て抱き上げて、あさましがり、貴がりけり。】

(1) 四人の生徒のうち、明らかに誤ったことを言っているのは誰か。A〜Dの記号で答えよ。思

(2) 傍線部Bの説明として最も適当なものを、次から選べ。思

A 『今昔物語集』『古本説話集』収録話では、清水寺の観音の御利益が称賛されているが、『宇治拾遺物語』収録話では、集団となった京童部の恐ろしさが中心的に描かれている。

I 『今昔物語集』『古本説話集』収録話では、歴史的事件の舞台としての清水寺に着目しているが、『宇治拾遺物語』収録話では、檢非違使としての忠明の人物像に着目している。

U 『今昔物語集』『古本説話集』収録話では、清水寺の舞台から落ちても無事だった例があることを伝えているが、『宇治拾遺物語』収録話では、例外も多々あることを示唆している。

E 『今昔物語集』『古本説話集』収録話では、忠明の超人的な能力は観音信仰のおかげだとしているが、『宇治拾遺物語』収録話では、忠明自身の努力のためものだとしている。

O 『今昔物語集』『古本説話集』収録話では、観音信仰のありがたさが前面に出ているが、『宇治拾遺物語』収録話では、危機を脱出した忠明の機転と勇気に焦点が当てられている。

【答】

(1) B (2) O